

勝利する闘い」への一大攻勢へ

兄弟組合=全金本山労組が4回定期大会ひらかる

臨調・行革粉碎！ 三里塚ジェット闘争勝利！

動労千葉はじめ、三里塚を闘う全国の 支援労組がかけつけて激励

本山闘争は、青柳・元副委員長への不当解雇攻撃にはじまる組合つぶし攻撃との闘い以降13年、72年12月の全組合員へのロックアウト攻撃から10年8カ月という長期争議を不屈に闘いぬいてきました。この間本山労組は、本山資本による暴力ガードマン導入と暴力労政に抗してあくまでも「二人の首切りも許さない」を合言葉に原則を堅持し、全国物資販売とアルバイトによる生活維持・闘争強化を闘いとつてきました。かつ、80年2月には、「屈辱妥協闘争拾収」をおしつけようとした全金中央本部と宮城地本による不当な指導と統制処分を抗して新労組「全金本山労働組合」を結成し、戦闘的・階級的旗を守り続けてきました。われわれ動労千葉もこの間、こうして不屈に闘いぬいている本山労組に対して、昨年を上まわる物資販売額をもちとり、本山支援の輪は全国に大きく拡がっています。

三里塚―国鉄決戦の勝利にむけた本格的な秋の闘いとの大きな結合の中で、本山闘争の勝利をかちとつていく立場から、われわれ動労千葉からも、本山の仲間と共に闘い・連帯して、この定期大会とひき続く全国総決起集会、門前闘争に代表団を送り、共に闘いぬきました。

新執行体制を確立し、 勝利への戦闘的方針を樹立

大会には、片岡本部教宣部長はじめ動労千葉からも6名が参加し、県（宮城）内外の多くの労組・支援の結集のもと盛大に開催されました。定刻の10時に開会され、冒頭来賓の挨拶に片岡教宣部長がたち、①三里塚を基軸とした労働運動の拡大をつくりだし、戦闘的労働運動の再生をかちとる。②国鉄労働運動の敵、国鉄当局・権力の手先き労働「本部」革マルを一掃する。③国鉄・三里塚の結合で、侵略と反動の中曽根政権を打倒しよう。④三里塚から脱離し、「一坪再共有化」運動で三里塚闘争に敵対する脱落派を解体し、10・9三里塚闘争の大結集をかちとろう、と熱烈にアピールを發しました。

このあと多くの挨拶をうけ、「85年地下鉄工事着工をめぐる工場移転合理化に対する闘いが本山闘争13年の歴史の中で正念場中の正念場となつてきている。『負けない闘い』から『勝利する闘い』への絶好のチャンスが到来している。今こそ今秋9月連続闘争から85年決戦へ本山資本を攻めて攻めて攻めまくろう」との方針が執行部より提起され、この戦闘的方針案・予算案は全組合員一致の挙手で承認され、新執行部を選出し閉会しました。

9月連続闘争勝利にむけて、 全国総決起集会―交流会―門前闘争

会場を移し、定期大会の熱気でむせかえる中、28団体、128名の参加をもって集会は始められました。冒頭、83年のたたかひの紹介としてスライドが上映され、組合員のいきいきとしたたたかひの姿が映しだされ、参加者の心をうちました。上映後、八重樫委員長（再選）の挨拶をうけたのち、基調報告が青柳書記長（新）から提起され、85年決戦勝利のために組合員・支援は団結してがんばろうと力強く訴えました。連帯の挨拶は大量解雇攻撃とたたかう日本ブリタニカ労組をはじめ5労組が行い、動労千葉からは「6・12デッチ上げ事件」とたたかう吉岡津田沼支部書記長が發言しました。これをうけて県内外からの支援団体が次々に發言しました。



1年のロックアウトに抗し、13年の不屈の闘いを続ける本山の兄弟たち。全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！